

□■養成所ニュースプラス第5号 2026□■

今週 17 日に、成年後見制度の見直しを含む民法等の一部を改正する法律が成立しました。皆さんの現場でも勉強会等行っているかと思います。今国会には、社会福祉法等の一部を改正する法律案も提出されており、後日、メルマガでもポイントを伝えていきます。

38 期生 1 学期前期のレポート提出は、明日の消印までが有効です。「受講の手引」86 ページで案内している「国家試験キーワードチェック (○×問題)」は、月末までに解答しましょう。また、今週から 1 学期中期に入りました。「医学概論」と「ソーシャルワーク演習」が該当科目です。「ソーシャルワーク演習」は、スクーリングの予習にもなります。テキストの節ごとに「学習のポイント」が示されているので、意識して読み進めましょう。

37 期生は、最後のレポート作成になります。特に、「福祉サービスの組織と経営」「保健医療と福祉」「権利擁護を支える法制度」は、課題文とレポート作成のポイントをよく読んでから取り掛かってください。

今週から受験対策ミニ講座を始めます。Plus Quiz は、「医学概論」から「薬害有害事象」に関する問題です。過去問は答えを覚えるのではなく、正解ではない選択肢のどこを直せば適切になるか考えることが大事です。早速やってみましょう。

■Plus Quiz

【第 37 回問題 2】高齢者における薬害有害事象の発生予防や発生時の対処方法に関する次の記述のうち、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

1. 服用法を複雑にする。
2. 定期的に処方内容を見直す。
3. 若年者と同じ投与量にする。
4. 投与薬剤の数はなるべく 8 剤以下にする。
5. 新規症状が出現した場合に薬剤を追加する。

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info

- ・(37 期生) 教育訓練給付制度 (専門実践教育訓練) の支給希望の方へ
申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。
本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。
- ・(38 期生) 教育訓練給付制度 (専門実践教育訓練) の支給希望の方へ
「受給資格者証と公的身分証明書のコピー」の提出をされていない方は、早急に提出してください。
- ・(38 期生) 見込書類 (実務経験証明書) のさしかえについて
入学願書提出時に「実務経験見込証明書」を提出している方は、入学資格または実習免除を満たした期間の「実務経験証明書」の提出が必要となりますので、早急に提出してください。
- ・受講の手引に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。
レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。
- ・(第 37-38 期生) 今夏のスクーリングの日程及び会場のご案内です。
詳しくはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=356

■Test Info

国家試験に関する情報をお届けします

- ・第 39 回国家試験は、令和 9 年 2 月 7 日です。
詳しくはこちら→<https://www.sssc.or.jp/shakai/index.html>

- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の全国統一模擬試験のご案内です。
詳しくはこちら→<https://www.spw-mosi.com/exam/>
 - ・本養成所主催、「受験対策講座」は web にて開催中です。
2 本目の「受験対策のポイントを中心とするガイダンス」が視聴可能となりました。是非ご活用ください。
受験対策ページへアクセスはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=5529
- ※パスワード等の案内は、養成所ニュースプラス第 2 号、第 4 号に添付しています。

■Plus Info

その他の情報をお届けします

- ・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。
詳しくはこちら→<http://www.aigo.or.jp/>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

■Plus Column

【受験対策ミニ講座第 1 回／医学概論】

今週から第 39 回国試を目指して、「受験対策ミニ講座」を始めます。今年度は Plus Quiz と連動させ、全 19 科目の出題傾向を皆さんと共有し、科目の具体的な対策を伝えていきます。また、その時々の特ピックスや受験対策ツール等も紹介していく予定です。

まずは、先日公表された「科目別出題基準」の見方についてお伝えします。中項目の範囲から試験問題は出題されます。大項目は、中項目を束ねる見出しで、小項目は、中項目の例示になります。小項目のキーワードを説明できるようにしておくことは試験対策にもなります。

さて、1 回目は「医学概論」です。始めることにしましょう。

1 第 37・38 回の科目の傾向

テキストを読むと一つの項目のボリュームは多くないですが、キーワードを示す赤太字が多いのがわかるでしょう。医療職に求められるような詳細の知識は求められませんが、広い知識が求められます。できるだけ皆さん自身や利用者さん等、身近な方をイメージしながら学ぶと理解が深まります。事例問題は第 34～37 回までは各回 1 問だけでしたが、第 38 回は 3 問に増えました。

2 国家試験の対策

法改正に左右されない内容なので、過去問を最大限活用できます。3 年分を 3 回やりつつ、一問一答アプリで 35 回以前の問題も繰り返すと知識が補強されます。6 問中 4 問は正解しないといけない科目だと考えてください。第 37 回であれば、問題 1「思春期・青年期の身体の特徴」、問題 2「薬害有害事象」、問題 5「肺炎」、問題 6「入院形態」、第 38 回であれば、問題 1「乳幼児期の発達」、問題 2「緩和ケア」、問題 4「回復期リハビリテーションの専門職」、問題 5「病気の予防」は、確実に点を取りたいものです。

大項目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程」は「身体構造と心身機能」の名称に対応させて覚えていくと効率が良いです。「心理学と心理的支援」「障害者福祉」「高齢者福祉」「保健医療と福祉」とも重なる内容があるので、一緒に学ぶと効率が上がります。入院の 5 つの種類は「障害者福祉」、自閉スペクトラム症は「心理学と心理的支援」でも出題されてきました。

午前最初の「医学概論」は、「慌てないこと」が一番の対策です。第 38 回問題 1 と問題 6 には、「定額－生後 1 か月」のように文章でない「組み合わせ」の選択肢が出題されました。また、多くは、「正しいものを」または「最も適当なものを」

1つ選びなさいという問題文ですが、第38回問題6では、「可能性が最も高い不整脈を1つ選びなさい。」と問われ、ぎょっとした人もいたと思います。問題文で全く知らないキーワードで問われても、慌てず選択肢をよく読み推論していきましょう。

【Plus Quiz・・・正答と解説】

受験対策ミニ講座でふれたように、この問題でも、テキストに出てこない「薬害有害事象」という言葉に慌てないで、選択肢にあたるかが大事です。それは、ここで1点取れるかどうかの分かれ目になります。選択肢自体は、高齢者の状況や身体への影響を常識的に考えることができれば正解できる問題です。

1. ×服用法を複雑にすると、高齢者は煩わしくなり飲み忘れや飲み残しが多くなります。身体症状に合わせ、薬剤形態の変更や一包化等服用法の簡素化が対処方法になります。
2. ○高齢者では、複数の症状について個別の治療が行われ、多剤服用（ポリファーマシー）になりがちです。優先順位の検討も含め、定期的な処方内容の見直しが必要です。
3. ×高齢者は臓器機能が低下し薬剤が代謝・排泄しにくくなるため、血中濃度が高くなりやすく注意が必要です。若者と同僚の投与ではなく、適切な量の投与が必要です。
4. ×何種類から多剤とするか厳密な定義はありませんが、6種類以上の薬物有害事象の発生増加に関連するというデータ（日本老年医学会「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン」p.15）があります。
5. ×服薬中の新規症状は、薬剤の副作用等により生じている可能性も考慮し薬剤の服用中止や減量を検討する必要があります。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus